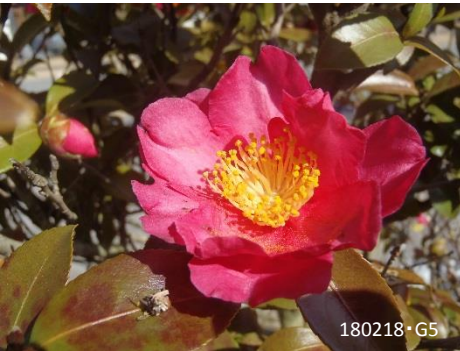


2月

↓アジュール舞子の草花・花木 2月

サザンカ 山茶花

花の無い時期に咲く貴重なツバキ科ツバキ属の耐寒性常緑高木です。花色には桃色、赤、白等があります。サザンカはツバキと違って、葉縁がギザギザしており、花弁がバラバラに散る。



ソシンロウバイ

素心蠟梅

葉の展開に先立って、花径2センチくらいの花をたくさんつける。ロウ細工みたいな花弁と嫌みのない芳香が特徴。蠟梅(ロウバイ)は内側の花被片が濃い紫色になるのだが、素心蠟梅(ソシンロウバイ)は花被片全体が黄色くなる。



* 山茶花は
芯が立ちやすく樹高が高くなる
花びらが少ない 5~10枚ほど
しわになるものが多い

* 寒椿は
芯が立ちにくく背が大きくなりにくい
花びらが多い 14枚以上
しわしわにならない



カンツバキ 寒椿

サザンカとツバキの交雑種と言われ、よく分枝するが背丈は低い。冬の間、紅、白、桃色の花を咲かせます。山茶花と同じで花弁はバラバラに散る。

ボケ 木瓜

日本、中国を原産とするバラ科ボケ属の落葉低木。枝にはとげが生えており、短い枝に花がびっしりとつきます。果実が瓜に似ており、木になる瓜で「木瓜(もけ)」とよばれたものが「ぼけ」に転訛したとも言われる。



↓アジュール舞子の草花・花木 2月



アセビ 馬酔木

馬が食すと酔ったように苦しむことに由来します。茎葉に有毒物質のアセボトキシンが含まれており人間が誤って口にすると腹痛、嘔吐などの症状を起こすことがあります。春にスズランのような甘い香りのする白い花を楽しむことができます。



ローズマリー

地中海沿岸に分布する常緑性の低木です。強い芳香があってハーブとして利用される。葉っぱは3cm程の短い棒状で濃緑色、表面には光沢があります。冬から秋にかけて葉の付け根に淡紫色の花を咲かせます。満開時は枝がたくさんの花で彩られます。

アケボノアセビ(ペニバナアセビ)



ヤブツバキ 藪椿

椿の仲間は200品種を越える園芸品種が作成されていて、日本に自生している野生種はこのヤブツバキと、その変種とされるユキツバキとヤクシマツバキの3種だけです。「つばき」の語源は、厚葉木(あつばき)または艶葉木(つやばき)といわれている。



ユキヤナギ 雪柳

バラ科シモツゲ属の落葉低木。株元から枝をたくさん出してわさわさと茂ります。緩やかなアールを描きながら長くしなやかに枝垂れる枝と株を被うほど咲く白い花が特長です。



↓アジュール舞子の草花・花木 2月

ヒラギナンテン 柗南天

葉っぱがヒラギ、実の付き方がナンテンに似ているためこの名前があります。葉っぱにはとげとげがあり、冬になると赤く色付きます。春には茎の頂点から花茎を横から斜め下に伸ばして、小さな黄色い花をたくさん咲かせます。



ナワシログミ

枝の先は、しばしば棘になる。マツ林などの明るい二次林や林縁などに生育している。葉の表面には星状の毛が点々とあり、独特の模様となっている。果実は4月から5月の「苗代」を作るころに赤熟するので、ナワシログミの名がある。



レンギョウ 連翹

モクセイ科の落葉性低木。細長い枝を地際からたくさん伸ばして茂ります。開花期は春で、枝を埋め尽くすほどたくさんの黄色い花を咲かせます。花びらは基部から深く4つに裂けてやや斜めに開きます。



カメリア(椿) エリナ・カスケード

ツバキ科ツバキ属の常緑中低木。椿の仲間では花が最小で、中国の野生種を改良した園芸品種。枝が細いので湾曲し、先端が下垂する枝垂れ性の椿で、春に白色で外弁花が薄桃色の小花を咲かせます。



オステオスペルマム

おもに南アフリカに分布する毎年花をさかせるキク科の草花。以前はディモルフォセカと混同されて売られていましたが、多年草で花茎に葉がつくなどの違いがあります。強い日差しを好み、乾燥に強いという性質は共通しています。花は日差しに反応して開き、日陰や雨の日は蕾のままになります



スイセン 水仙

ヒガンバナ科スイセン属の多年草。春を告げる草花として古くから親しまれています。スイセンの仲間はおよそ30種の野生種があり、全草に毒性があり、葉っぱがニラ、球根がタマネギと間違えられて食中毒を起こすケースがよく見られます。



↓アジュール舞子の草花・花木 2月



180224・F4



180218・F6



180218・F6



180224・F4

ノースポール
北アフリカ原産、1970年前後に日本へ入ってきた草花。草丈は20cm～30cm。葉はやや長くギザギザと切れ込みます。主な開花期は春～初夏で径3～4cmの白い花を咲かせます。中心の目の部分が黄色で、ノジグクやマーガレットに似た花姿です。



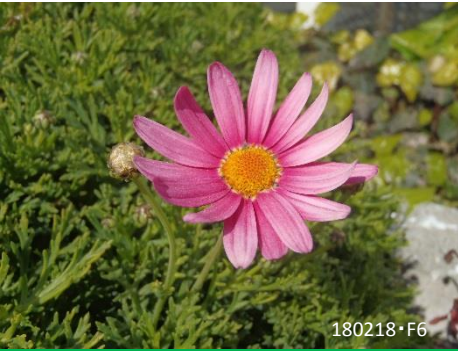
180218・F6

マーガレット
3-7月に花をつける。白色の一重咲きが普通であるが、黄色やピンクのもの、八重咲き、丁字咲きのものもある。本来は宿根草であるが、日本では温暖地でないと越冬できない。



1890224・F6

ユリオプスデージー
南アフリカ原産の常緑低木です。小さいうちは草花のような姿ですが、年を経ると茎は太くなって表面がごつごつした樹木らしい姿になります。葉は羽状に深く切れ込んで表面に柔らかい毛が密生し、灰白色に見えます。冬～春の花の少ない時期に一重の黄色い花を咲かせます。



180218・F6



フュシラズ

ノースポール

180218・F6



180203・E6



180218・F6

フュシラズ 冬知らず
春咲き一年草のキンセンカ(金盞花)の近縁で、キンセンカ(カレンジュラ)の寒さに強い品種です。花はキンセンカを二回り程小さくした感じで、黄色～オレンジ色の花をつける。日が当たると花が開き、夕方閉じる。



180224・E6

↓アジュール舞子の草花・花木 2月

ガザニア

主な開花期は初夏-秋で長く伸ばした花茎の先端に1輪の花をさかせます。色は黄色、ピンク、オレンジ、赤、白などがあり、蛇の目模様や2色咲き(バイカラー)、ストライプなど非常にカラフルです。花は晴れた日中に開き、日の射さない曇りや雨、夜間は閉じます。



180203・F3



180224・F8



180218・F8

キンギョソウ

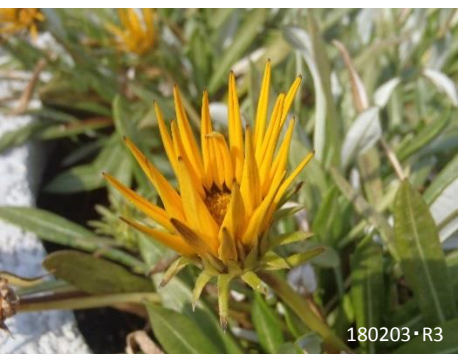
キンギョソウは地中海沿岸(南ヨーロッパ・北アフリカ)に分布する植物です。花茎をまっすぐ上に向かって伸ばし、穂状にたくさんの花を咲かせます。花の姿がひれを広げて泳いでいる金魚に見立ててキンギョソウの名前があります。



180203・H5

クリスマスローズ 「オリエンタリス」

毎年花を咲かせる多年草です。「クリスマスローズ」の名前は本来ヘレボラス属の中でも「ニゲル」という一つの種につけられた名前ですが、日本ではヘレボラス属全体を指すのが一般的です。



180203・R3



180224・O6



180224・F6

ナノハナ 菜の花

菜の花(なのはな)は、アブラナまたはセイヨウアブラナの別名のほか、アブラナ科アブラナ属の花を指す。菜とは食用の意味であり、菜の花とは食用の花の意味である。春、一面に広がる菜の花畑は壮観で、代表的な春の風物詩でもある。



180224・F8

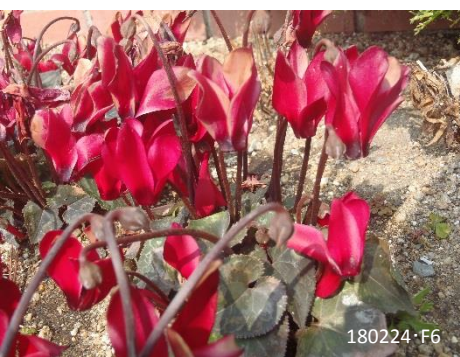


180224・O6

ガーデンシクラメン

サクラソウ科シクラメン属 日本の農家が寒さに強い系統を選抜、交配し開発した品種です。通常のシクラメンは霜に当たると、一発でダメですが、ガーデンシクラメンは弱るものの枯れるわけではありません。お庭に露地植えするのに向いています。

↓アジュール舞子の草花・花木 2月



180224・F6

イオノプシディウム

アブラナ科の植物で、小さい株を覆うように、とても小さい花が咲きます。花は十字形で、環境により白～紫色に変化します。それほど強くはありませんが香りがあります。葉もとても小さく、丸いかたちをしています。



180203・H5

オキザリス・桃の輝き

オキザリスはカタバミの仲間です。800～850種があり、世界に広く分布しています。花は夜間や雨天には閉じていて、日中の日ざしを受けると盃状やロート状に大きく開きます。満開のとき、株を覆うように咲く様子は非常に見ごたえがあり、人目を引きま



180203・F6

ミチタネツケバナ

アブラナ科タネツケバナ属の越年草または一年草。ヨーロッパ原産の帰化植物。空地や道端などに生える雑草。タネツケバナよりもやや乾燥した場所に生えていることが和名の由来。在来種のタネツケバナは水田など湿気の多い場所を好んで生えます。



180224・H5



180218・F6



180225・J5

ナズナ 薺

別名 ペンペン草 三味線草
アブラナ科ナズナ属の越年草。田畑や荒地、道端など至るところに生える。ムギ栽培の伝来と共に日本に渡来した史前帰化植物と考えられている。春の七草の一つで、若苗を食用にする。かつては冬季の貴重な野菜であった。



180224・H5



180225・J5



180218・H5



180224・H5



180224・H5

↓アジュール舞子の草花・花木 2月

ホトケノザ 仏の座

葉のつき方が「仏の蓮座」に似ていることからこの名がついた。
春の七草のホトケノザはキク科のコオニタビラコのことでは異なる。ホトケノザはシソ科の越年草で、花は葉の間からすくっと立ち上がり唇形花序しんけいかじよ。



180224・C6



180224・E6



180224・B6

ノボロギク

ヨーロッパ原産の1年草。明治始めに帰化し、畑などの他、道路のほとりや植栽枠の中などに普通に生育している。葉はつやがあつて柔らかく、シュンギクに似た形である。花は真冬にも咲き、一年中見られるが、冬から春にかけて咲いているのがよくめだつ。

プリムラ・ジュリアン

サクラソウ科サクラソウ属の園芸植物。冬から春の花が少ない時期に、赤、白、ピンク、紫、黄色などのポップな色彩の花を咲かせる草花です。



180224・B6



180218・C6



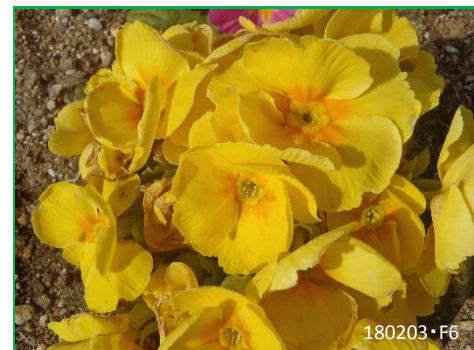
180203・F6



180224・B6

セイヨウタンポポ 西洋蒲公英

キク科タンポポ属の多年草。ヨーロッパ原産の帰化植物。環境省指定要注意外来生物。日本の在来種とは外側の総苞の反る点が異なる。



180203・F6

オランダミミナグサ

ナデシコ科ミミナグサ属の植物。小柄な一年草の雑草である。ヨーロッパ原産で、外来種として世界中に分布している。日本在来のミミナグサよりも花柄が短いので、花が集まったように見える。全草が柔らかい毛に覆われている。



180218・I6



180203・F6

彼岸花の葉

彼岸花はお彼岸の頃に真っ赤な花を咲かせ、数日で花が終わって茎だけになります。葉は花が終わった10月頃から生えてきて、寒い時期に色濃く茂り、春先に枯れ始めます。冬場に光合成して養分を貯えます。多くの植物は春先に芽を出し秋に枯れますが。

